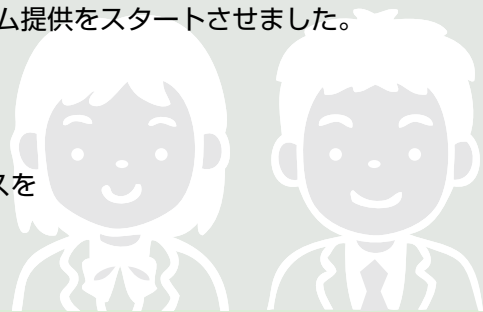


子どもたちへ アサーティブネスを

ここ数年、中学生・高校生を対象としたアサーティブネスの関心が高まってきました。私たちアサーティブジャパン（以下 AJ）では、「まずは大人がアサーティブであること」を第一に、まわりの大人たちにアサーティブネスを伝えてくることに注力してきましたが、この機会に“子ども達にもアサーティブネスを広げよう”という動きが始まり、子どもたちが安心してアサーティブネスを学べるようなプログラム提供をスタートさせました。

そこで今回の特集では、5月に行われた総会の記念講演「NPO カタリバ～ナナメの関係とは～」の簡単なお紹介と、AJのトレーナーが実際に思春期の子どもたちにアサーティブネスを伝えてみた感想やこれからの課題などをご紹介します。



NPO カタリバ講演 ～ナナメの関係とは～

NPO カタリバは大学生などの若い人たちが主体となって高校におもむき、“ナナメの関係”で高校生と大学生が語り合う授業で、高校生に自分を見つめるきっかけを提供している NPO 法人です。今回は三箇山優花さんをお招きし、ユニークな活動の一端をお話いただきました。ほんの一部ですが当日の様子をご紹介します。



（「NPO カタリバ」の活動についてはこちらをご覧ください。<http://www.katariba.net/>）

講演では、ニュース映像で「カタリバ」の実際の活動風景を見るところから始まりました。殻に閉じこもってなかなか口を開かなかった高校生たちが、ちょっと年上の大学生たちの体験談や自己開示に耳を傾けるにつれ、徐々にその顔が上を向いていき、表情も変わっていきます。

また語り手となる大学生たちも、恥も外聞も捨てて精一杯全力で体当たりし、その後の反省会では、胸がいっぱいになって泣き崩れている姿を正直に見せてくれていました。場を提供する側もされる側も、

「ともにエンパワメントされる仕組みづくり」こそが、カタリバの魅力です。その実践談にとっても感動させられました。

今でこそ洗練された仕組みを提供しているカタリバですが、活動当初はやはり周囲から理解が得られず大変だったとのこと。はじめの3年間は、どの学校に交渉に行っても門前払いの日々だったそうです。しかし門前払いをされながらも、「ああ、こういうところが課題なんだな」とひとつひとつその課題に取り組む中で学校との信頼関係を作ってきたそうです。